



博物館通信

夏号



2023年7月発行 Vol.88



ペルセウス座流星群の出現に期待！

皆さんは「流れ星」(流星)を何個くらい見たことがありますか？

流星は、小さなちりが地球の大気に飛び込み、ちりと大気が衝突して明るく光って見える現象です。

ところで、「流れ星」といえば「願い事」を連想する人が多いかもしれませんね。ふだん、星がよく見えるような暗い空を注意深く眺めていれば、一晩に数個くらいは見られるはずですが・・・流星を見るために何時間も空を見上げる、とはあまりにも気の長い話。

でも、「流星群」となると、1時間に数個から数十個もの流星が見られる可能性があるのです。多くの流星を見て盛り上がりたり、あれもこれもと願い事をしたりする大チャンス！

静かに観察するもOK！
願い事をつぶやくもOK！
自分らしく夏の夜の天体ショーを楽しむのはどうですか？
虫よけ対策も忘れずに！！



8月13日午前3時頃の空の様子

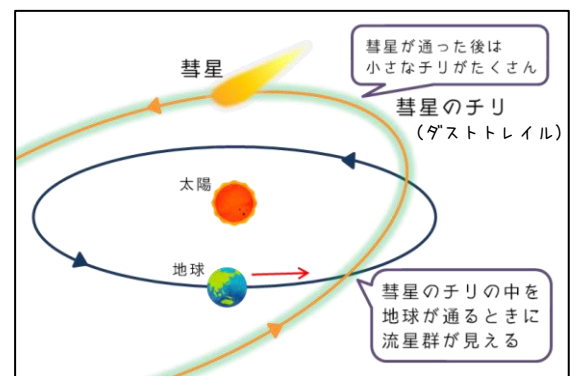


ペルセウス座流星群って？

さて、ペルセウス座流星群は、毎年ちょうどお盆の頃に「ペルセウス座」付近を中心(放射点)として多くの流星が見られる現象です。流星が多く見られる理由は、地球の公転軌道付近に彗星(ほうき星)が残っていた細かいちりの帯(ダストトレイル)を地球が通過する際に、通常よりずっと多くのちりが大気に飛び込んでくるからです。

今回、多くの流星出現が期待されるのは、8月12日から14日まで。(流星群の活動の極大は8月13日の17時頃と予想され、残念ながら日本ではまだ明るい時間帯です)

この時期、細い月なので、月明かりの影響はほとんどないという好条件なので、周囲に明かりが少なく、できるだけ暗い場所(安全第一!)で、北東の空のやや高いあたりを中心として夜空全体を眺めていると、いくつもの流星が見られるでしょう。





銀河 M101 に新天体を発見!?

2023年5月20日(日本時間)、アマチュア天文家で数々の新天体を発見している板垣公一さんが、おおぐま座の銀河 M101 に新天体(発見当時 14.9 等)を発見しました。その報告からわずか 40 分後には、カナリア諸島ラパルマ天文台のリバプール望遠鏡で分光観測が行われ、そのスペクトルから超新星であることがわかりました。

超新星とは、大質量の恒星が寿命を迎えたときに起こす大爆発によって輝く天体のことです。それまで何もなかったところに突然星があらわれ、一夜にして 10 等級以上も明るくなるこの現象は、まだ望遠鏡がなかった時代から観測されていて、日本でも、鎌倉時代の頃に書かれた「明月記」に 3 件の超新星が記録されています。

超新星は 1 つの銀河の中では 50 年から 100 年に 1 度くらいの割合でしか出現せず、しかもその多くは遠方の銀河で発見されているため、望遠鏡を使ってもなかなか目にすることはできません。けれど今回は、地球からの距離が約 2,100 万光年と比較的近い距離にある銀河 M101 で発見されたので、約 11 等級まで明るくなり、その姿を見ることができました。また 3,000 万光年より近い銀河での重力崩壊型超新星の出現ということで、重力波やニュートリノも検出できるのではないかと、いろいろ期待する声もあがっています。



撮影：博物館友の会 水谷さん

おおぐま座のしっぽのあたりに位置する銀河 M101 で発見された超新星(丸の真ん中)

板垣さんの超新星発見は、なんと通算 172 個目だよ!



イベント情報

※詳しくは当館 HP をご覧ください



工作教室
望遠鏡を作ろう!



京都大学
せいめい望遠鏡
テレビ観望会



夏の観望会
～ペルセウス座流星群をみよう～



※事前申込みが必要

ライトダウン
in あさくち
8/16~22

旧暦の七夕に電気を消して、
たくさんの星を見よう!



プラネタリウム夏番組

「ヘーゼルナッツ

理想の星をさがして」

森に住むリスのリノとリリーはヘーゼルナッツが大好き。

いつの日か、もっと大きくて美味しい「スーパーヘーゼルナッツ」を見つきたい!と夢見る二人は、「もしかしたら、この星の空の上にあるかも!」と、なんと宇宙へ探しに行くことに。けれど宇宙への道のりはなかなか険しく失敗ばかり。そのたびに物知りフクロウのレオンが、宇宙や惑星について教えてくれます。果たして二人は、スーパーヘーゼルナッツを見つけることができるのでしょうか?



岡山天文学博物館

〒719-0232
岡山県浅口市鴨方町本庄 3037-5
TEL/FAX 0865-44-2465

<http://ww1.city.asakuchi.okayama.jp/museum>

